

2024年度 学科別授業科目一覧表（実務経験表記あり）

課程：工業専門課程

学科：高度情報システム科

NO.	授業科目	学年	授業時間数	単位	必須・選択	講義・実習	実務経験
30	Java演習 I	2	30	1.5	必修	実習	無
31	Java文法 I	2	30	2	必修	講義	無
32	プログラミング演習	2	60	3	必修	実習	有
34	WEBプログラミング	2	60	3	必修	実習	無
35	JavaScript I	2	60	3	必修	実習	有
36	JavaScript II	2	60	3	必修	実習	有
37	データベース演習(SQL)	2	60	3	必修	実習	有
38	CCNA III	2	30	1.5	必修	実習	無
39	CCNA IV	2	30	2	必修	講義	無
40	CCNA V	2	30	1.5	必修	実習	無
41	CCNA VI	2	30	2	必修	講義	無
42	Linux I	2	60	3	必修	実習	有
43	LinuxII	2	60	3	必修	実習	有
44	LPIC/LinuC対策 I	2	30	2	必修	講義	有
45	AI基礎	2	30	2	必修	講義	有
46	セキュリティ解析	2	30	1.5	必修	実習	無
47	システム設計	2	30	2	必修	講義	有
48	オペレーションズリサーチ I	2	30	2	必修	講義	無
49	オペレーションズリサーチ II	2	30	2	必修	講義	無
50	応用情報対策	2	30	2	必修	講義	有
51	基礎数学Ⅲ	2	30	2	必修	講義	無
52	基礎英語Ⅲ	2	30	2	必修	講義	有
53	情報関連法規Ⅱ	2	30	2	必修	講義	有
54	プレゼンテーション	2	30	1.5	必修	実習	有
55	体育実習Ⅱ	2	30	1.5	必修	実習	無

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	Java演習 I	砂賀 勝己	無	1.5 単位 30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

Javaのプログラミング手法について学習する。
オブジェクト指向プログラミングの考え方を理解する。

【講義概要】

文法で学んだことを演習することで、より理解力を含める。

回	授業計画及び学習の内容
1	C/C++との違い、基本構文、四則演算、コンソール入出力、基本型
2	基本構文、メソッド
3	配列
4	クラスの概要、コンストラクタ、アクセス修飾子
5	継承
6	インターフェース、イベント処理
7	総合演習1
8	オブジェクトの配列、ネストクラス、インナークラス
9	コンストラクタ
10	リストボックス
11	マウスイベント
12	インナークラス
13	抽象クラス、アダプタークラス
14	匿名クラス
15	総合演習2

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ()	合計
割合	80%			20%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

教員歴30年強。プログラム言語やネットワーク、サーバ系の授業を主に担当。
学内情シスのような業務も行っている。

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2024		2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	講義	Java文法 I		砂賀 勝己	無	2単位	30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

Javaのプログラミング手法について学習する。
オブジェクト指向プログラミングの考え方を理解する。

【講義概要】

文法で学んだことを演習することで、より理解力を含める。

回	授業計画及び学習の内容
1	C/C++との違い、基本構文、四則演算、コンソール入出力、基本型
2	基本構文、メソッド
3	配列
4	クラスの概要、コンストラクタ、アクセス修飾子
5	継承
6	インターフェース、イベント処理
7	総合演習1
8	オブジェクトの配列、ネストクラス、インナークラス
9	コンストラクタ
10	リストボックス
11	マウスイベント
12	インナークラス
13	抽象クラス、アダプタークラス
14	匿名クラス
15	総合演習2

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%			20%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

教員歴30年強。プログラム言語やネットワーク、サーバ系の授業を主に担当。
学内情シスのような業務も行っている。

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	プログラミング演習	清野 ひろし	有	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

C言語の応用、C++の基礎から応用とより実践的なプログラミング手法について学ぶ。
リストやツリーなどデータ構造についても併せて学習する。

【講義概要】

文法で学んだことを演習することで、より理解力を含める。

回	授業計画及び学習の内容
1	C言語復習-全般
2	プリプロセッサ、コマンドライン引数
3	共用体
4	ポインタ
5	データ構造-リスト他
6	データ構造-ツリー他
7	総合演習1
8	C++基礎-全般 ★ここからC++
9	ストリーム、ファイル
10	クラスの基礎
11	継承、コンストラクタ、名前空間
12	テンプレート、STL
13	デストラクタ、動的メモリ確保
14	Windowプログラム
15	総合演習2

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%			20%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

8年程度PG, SEとして実務経験あり。主に言語関係(C, java, C++, C#, php, python)、linux、DBなどを担当する。

【教科書・参考文献】

特になし。資料による授業

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	WEBプログラミング	砂賀 勝己	無	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

CGIとDBを用いたウェブサイトの構築手法について学習する

【講義概要】

言語としてphp、DBサーバとしてmysqlを使う。演習をメインとして理解力を深める

回	授業計画及び学習の内容
1	php概要、phpの基本文法・他言語との違い(変数、制御文など)、CGIとは
2	postによるデータの取得とページの生成、文字列を扱う関数
3	ファイル、ラジオボタン(Form要素)
4	連想配列、foreach、die、チェックボックス(Form)
5	正規表現ー概要、記述法、関連関数ー、配列操作1ー追加/削除のメソッドなどー
6	配列操作2ーソート、コピーー、ファイルへのデータの追加、正規表現応用
7	総合演習1
8	関数(ユーザ定義)、日付関数
9	ヒアドキュメント、table関係の要素、phpによる作表
10	cookie操作
11	phpとmysqlの連携1ーmysql概要、接続/アクセスのための基本メソッドー
12	セッション管理、phpとmysqlの連携2ー各種SQL文1ー
13	phpとmysqlの連携3ー各種SQL文2ー、include
14	クラスの利用、getメソッド
15	総合演習3

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他()	合計
割合	80%			20%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

教員歴30年強。プログラム言語やネットワーク、サーバ系の授業を主に担当。
学内情シスのような業務も行っている。

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	JavaScript I	加藤友樹	有	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

ブラウザで稼働する唯一の言語JavaScriptとは何なのかを知り基礎的な知識を学びます。

【講義概要】

JavaScriptによって作ることができるものを知り、静的なホームページから動的なホームページへ改良をすることができるようになる。

回	授業計画及び学習の内容
1	JavaScriptとはどんなプログラミング言語か？ JavaScriptのできる事。開発環境の準備。
2	HTML (HyperText Markup Language) とDOM(Domain Object Model)の関係
3	Webページに関わる様々なファイル、ドメインとオリジン
4	プログラムの基本的な仕組み 変数宣言、代入、スコープなど
5	大量のデータを扱うデータ型 オブジェクトと配列 演算子
6	関数、制御構文、データ処理
7	プログラムの制御、繰り返し処理
8	配列の処理
9	文字列、日時処理
10	JavaScriptのオブジェクト指向について その1
11	JavaScriptのオブジェクト指向について その2
12	イベントによJavaScriptとDOMの接続
13	フォームの操作 その1
14	フォームの操作 その2
15	DOM操作を利用したアニメーション

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ()	合計
割合	60%	20%		20%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

ウェブ制作会社やセキュリティ企業で設計から開発に関わる全般の業務に従事。

【教科書・参考文献】

JavaScript[完全]入門 <https://amzn.asia/d/bYQjdds>
上記に加え別途補足資料を作成し配布

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	JavaScript II	加藤友樹	有	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

JavaScript I の基礎的な内容を踏まえ、より実践的な内容を学びます。

【講義概要】

非同期処理、canvas要素を学び、実践的なサイト制作、Webアプリケーション開発を学びます。

回	授業計画及び学習の内容
1	JavaScript I のおさらい JavaScriptのできる事。HTML (HyperText Markup Language) とDOM(Domain Object Model)の関係
2	非同期処理と通信処理 その1
3	非同期処理と通信処理 その2
4	canvas要素とは。HTMLとJavaScriptを使って図形を描いてみよう その1
5	canvas要素とは。HTMLとJavaScriptを使って図形を描いてみよう その2
6	演習実践・ Webページをつくろう その1
7	演習実践・ Webページをつくろう その2
8	ストレージの利用 作成したファイルのローカル保存など
9	応用実践・ Webアプリケーション開発 その1
10	応用実践・ Webアプリケーション開発 その2
11	応用実践・ Webアプリケーション開発 その3
12	応用実践・ Webアプリケーション開発 その4
13	応用実践・ Webアプリケーション開発 その5
14	応用実践・ Webアプリケーション開発 その6
15	応用実践・ Webアプリケーション開発 その7

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ()	合計
割合	70%	10%	10%	10%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

ウェブ制作会社やセキュリティ企業で設計から開発に関わる全般の業務に従事。

【教科書・参考文献】

JavaScript [完全] 入門・オリジナル教材など

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	データベース演習(SQL)	坂井 剛	有	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

データベースを操作するためのSQLに関する基礎学習と、演習を通じた経験を取得する。
ベンダー資格「ORACLE MASTER Silver SQL 2019」取得を視野に入れた講義内容となる。

【講義概要】

本講義ではOracleデータベースでの動作を前提とする。
資格「ORACLE MASTER Silver SQL 2019」の取得により本講義は免除となる。

回	授業計画及び学習の内容
1	リレーショナルデータベースとOracleデータベース
2	SELECT文の基礎とデータの扱い
3	データの選択（検索）およびソート
4	単一行ファンクションを使用した出力のカスタマイズ
5	変換ファンクションおよび条件式の使用
6	集計ファンクションを使用したデータの集計
7	結合を使用した複数の表のデータの表示
8	中間試験
9	副問合せ
10	集合演算
11	データの変更とトランザクション
12	シーケンス、シノニム、索引、ビュー
13	DDLによる表の管理
14	データディクショナリビュー
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	70%			30%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学院出身後、8年間企業においてSEとして業務に携わる。
その後2010年より教員として勤務。
Oracle Master 10g~12c Silver (10g Goldは筆記のみ取得) 所有。

【教科書・参考文献】

『オラクルマスター教科書 Silver SQL Oracle Database SQL』(翔泳社、ISBN-9784798172361)

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	CCNA Ⅲ	平塚悠生	無	1.5 単位 30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

最終的にはCCNAを取得するだけの知識と、ネットワーク機器の基本的な操作を身につける

【講義概要】

OSI参照モデルに従い、各層で動作するネットワークデバイスの役割を学ぶ。シミュレーションソフトを用いてネットワークデバイスの基本的な操作を身につける。

回	授業計画及び学習の内容
1	OSI参照モデルL1について
2	仮想端末接続
3	ルータ起動の流れ
4	IFのL1およびL2の状態について
5	スタティックルートの復習と応用
6	ここまでの振り返り（中間試験対策）
7	中間試験
8	ダイナミックルートとスタティックルートの比較
9	ルーティングプロトコルの基本的なしくみ
10	フローティングスタティックルート、VLSMについて
11	RIPの概要
12	RIPの設定演習
13	ワイルドカードマスクについて
14	ここまでの振り返り（期末試験対策）
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	70%			30%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

前職にてCCNAおよびLPICレベル1取得研修業務に約6年従事。教員に類する職務経験は17年程度。

【教科書・参考文献】

(参考文献) 翔泳社「Cisco CCNA完全合格テキスト&問題集」

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	CCNA IV	平塚悠生	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

最終的にはCCNAを取得するだけの知識と、ネットワーク機器の基本的な操作を身につける

【講義概要】

OSI参照モデルに従い、各層で動作するネットワークデバイスの役割を学ぶ。シミュレーションソフトを用いてネットワークデバイスの基本的な操作を身につける。

回	授業計画及び学習の内容
1	OSI参照モデルL1について
2	仮想端末接続
3	ルータ起動の流れ
4	IFのL1およびL2の状態について
5	スタティックルートの復習と応用
6	ここまでの振り返り（中間試験対策）
7	中間試験
8	ダイナミックルートとスタティックルートの比較
9	ルーティングプロトコルの基本的なしくみ
10	フローティングスタティックルート、VLSMについて
11	RIPの概要
12	RIPの設定演習
13	ワイルドカードマスクについて
14	ここまでの振り返り（期末試験対策）
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	70%			30%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

前職にてCCNAおよびLPICレベル1取得研修業務に約6年従事。教員に類する職務経験は17年程度。

【教科書・参考文献】

(参考文献) 翔泳社「Cisco CCNA完全合格テキスト&問題集」

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	CCNA V	平塚悠生	無	1.5 単位 30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

最終的にはCCNAを取得するだけの知識と、ネットワーク機器の基本的な操作を身につける

【講義概要】

ルータの各種機能と設定方法を取り扱う。

回	授業計画及び学習の内容
1	OSPFの設定
2	OSPF概要①
3	OSPF概要②
4	ACL概要①
5	ACLの設定
6	ここまでの振り返り（中間試験対策）
7	中間試験
8	NAT概要
9	NATの設定
10	EIGRP概要と基本設定
11	EIGRP概要
12	EIGRP概要
13	EIGRPの応用設定
14	ここまでの振り返り（期末試験対策）
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	70%			30%		100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

前職にてCCNAおよびLPICレベル1取得研修業務に約6年従事。教員に類する職務経験は17年程度。

【教科書・参考文献】

（参考文献）翔泳社「Cisco CCNA完全合格テキスト&問題集」

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	CCNA VI	平塚悠生	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

最終的にはCCNAを取得するだけの知識と、ネットワーク機器の基本的な操作を身につける

【講義概要】

ルータの各種機能と設定方法を取り扱う。

回	授業計画及び学習の内容
1	OSPFの設定
2	OSPF概要①
3	OSPF概要②
4	ACL概要①
5	ACLの設定
6	ここまでの振り返り（中間試験対策）
7	中間試験
8	NAT概要
9	NATの設定
10	EIGRP概要と基本設定
11	EIGRP概要
12	EIGRP概要
13	EIGRPの応用設定
14	ここまでの振り返り（期末試験対策）
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	70%			30%		100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

前職にてCCNAおよびLPICレベル1取得研修業務に約6年従事。教員に類する職務経験は17年程度。

【教科書・参考文献】

（参考文献）翔泳社「Cisco CCNA完全合格テキスト&問題集」

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2024		2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	実習	Linux I		坂巻吉則	有	3単位 60時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

Linuxを利用したサーバー構築に必要な知識および操作技術を、仮想化環境を利用した実機演習を通して習得することを目標とする。

【講義概要】

各回ともそのテーマに関する、演習課題（実機コマンド操作）を1～3問程度出題する。

回	授業計画及び学習の内容
1	Linuxの環境構成、Linuxの特徴
2	ファイル操作の基礎
3	ファイル操作の基礎
4	テキスト処理
5	ユーザーとグループの管理、所有者管理とアクセス権の設定
6	パッケージ管理、システムアーキテクチャー
7	中間課題
8	デバイスとファイルシステム
9	シェルの機能とシェルスクリプト
10	ネットワーク管理
11	システム管理
12	セキュリティ
13	最終課題
14	総合演習1
15	総合演習2

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	40%			20%	40%	100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

IT教育専門会社の代表としてIT教育関連事業に従事する。
現在は主に提携する大手メーカー系Sierのサーバー・ネットワーク系講師としての登壇および、カリキュラム開発を担当。
大手ITスクールにてインフラ系インストラクターのリーダーとして教育業務経験、独立系Sierにてサーバー・ネットワークシステムの設計構築、および関連するカリキュラム開発業務の経験あり。

【教科書・参考文献】

Linuxベーシック（オリジナルテキスト）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2024		2年 後期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	LinuxII	坂巻吉則	有	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

WebサーバーやDNSサーバーをはじめとする各種Linuxサーバーの構築技術の習得、およびサーバー構築時におけるセキュリティ知識を習得することを目標とする。

【講義概要】

各回ともそのテーマに関する、演習課題（実機コマンド操作）を1～3問程度出題する。

回	授業計画及び学習の内容
1	Linux環境の構築、システム管理の基礎
2	アカウントのセキュリティ、ネットワーク設定
3	データベースとの連携機能を持ったWebサーバーの構築（LAMP環境の構成）
4	データベースとの連携機能を持ったWebサーバーの構築（LAMP環境の構成）
5	SSHによる暗号化通信、サービス公開状況の把握とファイアウォールの設定
6	ファイルサーバーの構築
7	DNSサーバーの構築
8	DNSサーバーの構築
9	メールサーバーの構築
10	メールサーバーの構築
11	総合演習課題（Webサーバー、DNSサーバー、メールサーバーの構築）
12	総合演習課題（Webサーバー、DNSサーバー、メールサーバーの構築）
13	総合演習課題（Webサーバー、DNSサーバー、メールサーバーの構築）
14	総合演習課題（Webサーバー、DNSサーバー、メールサーバーの構築）
15	総合演習課題（Webサーバー、DNSサーバー、メールサーバーの構築）

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（出席点）	合計
割合	40%			20%	40%	100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

IT教育専門会社の代表としてIT教育関連事業に従事する。現在は主に提携する大手メーカー系Sierのサーバー・ネットワーク系講師としての登壇および、カリキュラム開発を担当。大手ITスクールにてインフラ系インストラクターのリーダーとして教育業務経験、独立系Sierにてサーバー・ネットワークシステムの設計構築、および関連するカリキュラム開発業務の経験あり。

【教科書・参考文献】

LinuxServerセキュリティ（オリジナルテキスト）

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	LPIC/LinuC対策 I	太田 和也	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

Linux Essentialsを取得する

【講義概要】

CentOSの基本的な操作を習得していることを前提として、Linux Essentials試験対策に特化した知識の整理を行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	パス、ユーザ、コマンドの基本書式
2	シェル変数と環境変数
3	ファイルとディレクトリの操作
4	テキストファイルの操作
5	アーカイブの作成展開、圧縮と解凍、テキストエディタvi
6	ここまでの復習
7	中間試験
8	スクリプトの基本
9	ハードディスク、各種ディレクトリの役割
10	ネットワーク基礎
11	ユーザとグループの管理
12	パーミッション設定、Linuxのアプリケーション
13	Linuxのディストリビューションとライセンス
14	ここまでの復習
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	100%					100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

独立系IT企業にて、アンチウイルス製品のプリセールスおよび製品導入作業、サーバの設計、構築、保守に従事。

【教科書・参考文献】

教科書：JMAM Linux Essentials合格テキスト&問題集

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	AI基礎	仲 智弘	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

AIの基礎を理解する。

【講義概要】

教員の講義を聞いて問題集を解く。

回	授業計画及び学習の内容
1	AIとは / AIの歴史 / AIでできること：探索、推論
2	AIでできること：知識表現 / 機械学習・深層学習 / 人工知能分野の問題
3	回帰分析の基本用語
4	回帰分析：最小二乗法、単回帰分析、重回帰分析
5	回帰分析：白色化 / 手法の評価 / 分類問題：最尤法
6	分類問題：ロジスティック回帰
7	中間試験
8	アンダーフィッティング対策：正則化、Lasso回帰、Ridge回帰、Elastic net
9	バギング、ランダムフォレスト、ブースティング
10	単純パーセプトロン、多層パーセプトロン（NNW）、ディープラーニング
11	誤差逆伝播法、特徴量、活性化関数、勾配消失問題
12	オートエンコーダ（自己符号化器）ファインチューニング、転移学習
13	ディープラーニングの手法：学習率の最適化、ドロップアウト、early stopping、データの正規化
14	ディープラーニングの手法：CNN
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%	0%	0%	20%	0%	100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

独立系IT企業にてSE・PGとしてソフトウェア開発業務に従事。

【教科書・参考文献】

徹底攻略ディープラーニングG検定ジェネラリスト問題集 第2版（徹底攻略シリーズ）

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	セキュリティ解析	平塚 悠生	無	1.5単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

簡単なCTF (Capture The Flag) 競技の問題が解けるレベルの基礎知識を身につけることを目的とする。なお、バイナリ解析ではx86_64環境をベースにして説明する。

【講義概要】

1～2回目の授業では、Linuxに関する説明や基本的なコマンド操作を学ぶ。その後、Linuxコマンド及びWindows上のツールを用いて演習を行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	Linuxの基本操作 1
2	Linuxの基本操作 2
3	CTFの説明 fileコマンド、stringsコマンド
4	Forensics1 バイナリ
5	Forensics2 zip解凍、Exif情報
6	Crypto1 base64、シーザー暗号、ハッシュ (MD5, SHA-1)、RSA暗号
7	Crypto2 ハッシュ (MD5, SHA-1)、RSA暗号
8	Reversing1 アセンブラ言語の読み方① 代入、加算、減算、関数呼び出し
9	Reversing2 アセンブラ言語の読み方② 分岐、繰り返し
10	Reversing3 バイトオーダー、スタック領域の考え方
11	Reversing4 gdbの使い方
12	Pwnable1 パイプによる入力、バッファオーバーフロー
13	Pwnable2 任意の関数を呼び出す、Format String Attack
14	総合演習
15	総合演習

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ()	合計
割合	85%			15%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

前職にてCCNAおよびLPICレベル1取得研修業務に約6年従事。教員に類する職務経験は17年程度。

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2024		2年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
基礎専門 必修	講義	システム設計	川前 亘	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

【テーマ】設計工程を中心に、システム開発の知識・テクニックを体系的に学ぶ

【到達目標】

- ・基本情報処理技術者の科目Aレベルの問題を理解／正答できる
- ・様々なシステム設計の方法と、それらの使い分けを理解できる
- ・簡単なシステム要件定義／設計ができる

【講義概要】

前半は講義でシステム設計／開発の方法を教本をベースに説明。基本情報過去問を含め問題演習も行う
後半は演習として、前半の知識を活かして実際にシステム設計やテスト計画作成の演習を行う

回	授業計画及び学習の内容
1	【講義】システム開発の全体像（システムとは？／IT業界／開発方法）
2	【講義】要求分析（ブレインストーミング／概念データ設計／業務分析／機能分析）
3	【講義】要件定義 / 基本設計①（アプローチ／論理データ設計）
4	【講義】基本設計②（画面・帳票設計／システム構成設計）
5	【講義】詳細設計①（物理データ設計／モジュール設計／クラス設計）／小テスト
6	【講義】詳細設計②（プログラム設計／決定表）／中間試験対策
7	中間試験
8	【講義】中間試験振り返り / 実装
9	【講義】単体試験 【演習】単体テスト計画作成（excel）
10	【講義】結合試験 【演習】単体テスト計画作成（excel）
11	【講義】システム企画／マネジメント
12	【演習】設計課題（astah）
13	【演習】設計課題（astah）／小テスト
14	【演習】設計課題（astah）
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%	10%	0%	10%		100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大手化学系メーカーで社内SEを経験後、独立系Silerでシステム開発経験有

【教科書・参考文献】

1週間でシステム開発の基礎が学べる本
著者：増井敏克／出版：株式会社インプレス

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2024		2年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
基礎専門 必修	講義	オペレーションズリサーチ I	阿部 潤子	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

経営工学（OR）の目的は、現実の問題を解決するためのモデルを作成し、そのモデルの最適解を見つけることである。既に確立されてよく利用されるORの手法を幾つか学び、理解する。

【講義概要】

シミュレーション、待ち行列の理論、仕事の順序づけ、線形計画法について講義する。演習問題を解き、OR的なアプローチやモデル化の方法、最適解の求め方などを習得する。

回	授業計画及び学習の内容
1	乱数を用いた確率的シミュレーションの方法を学ぶ。
2	窓口が1つの場合の待ち行列のシミュレーションを行う。
3	窓口が2つの場合の待ち行列シミュレーションを行う。
4	待ち行列ができる簡単なモデルから定常状態の確率分布を求める。
5	待ち行列では到着人数の確率分布はポアソン分布（ポアソン到着）になることを学ぶ。
6	ポアソン到着、指数サービス時間の場合に窓口での待ち人数の確率分布を求める。
7	中間試験（筆記）
8	ポアソン到着、指数サービス時間の場合に窓口での平均待ち時間、平均待ち人数を求める。
9	2種類の仕事を2台の機械で処理する場合の仕事の順序付けを学ぶ（ジョンソンの方法）。
10	n種類の仕事を2台の機械で処理する場合の仕事の順序付けを学ぶ。
11	n種類の仕事を3台の機械で処理する場合の仕事の順序付けを学ぶ。
12	効率の良い生産計画のために、線形計画法を用いて最適解を見つける方法を学ぶ。
13	線形計画法の図解法により最適解を見つける方法を学ぶ。
14	シンプレックス法を使って最適解を見つける方法を学ぶ。
15	期末試験（筆記）

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%		15%	6%		100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学、大学院にて物理学を専攻し、修士号を取得。1985年より東京電子専門学校で数学関連の教科を教え始め、現在に至る。

【教科書・参考文献】

オペレーションズリサーチ読本（刀根薫著・日本評論社）、初等ORテキスト（OR演習部会編・日科技連）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2024		2年 後期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
基礎専門 必修	講義	オペレーションズリサーチⅡ	阿部 潤子	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

PERT・CPMと在庫管理について具体的に学ぶ。これらは生産システムを管理する際に重要で、実用性の高いものであることを理解する。多くの例題や問題を解くことで、活用できることをめざす。

【講義概要】

PERT(日程計画の図式化)の講義と演習の後、日程短縮の方法(CPM)を講義し、演習問題を解く。最適在庫量について学び、演習問題を解くことにより、在庫管理の方法を習得する。

回	授業計画及び学習の内容
1	PERTの目的を理解する。作業リストに従って矢線図を描くことを学ぶ。
2	結合点時刻とクリティカルパス最早結合点時刻と最遅結合点時刻について学ぶ。
3	最早(最遅)開始時刻と最早(最遅)終了時刻、総(自由)余裕時間について学ぶ。
4	各作業の作業費用の増加が一律の場合に、日程を短縮する方法を学ぶ。
5	各作業の費用勾配を考慮して、最少の費用で日程を短縮する方法を学ぶ(CPM1)。
6	各作業の費用勾配を考慮して、最少の費用で日程を短縮する方法を学ぶ(CPM2)
7	中間試験(筆記)
8	在庫にかかる費用から、最適在庫量の必要性、在庫管理の重要性を理解する。
9	一定需要のもとでの最適発注量、発注費用、在庫維持費用、EOQ公式について学ぶ。
10	不確定需要のもとでの最適発注量、品切れ費用、過剰在庫費用の求め方について学ぶ。
11	定量発注方式による在庫管理、および発注量と発注点について学ぶ。
12	定期発注方式による在庫管理、および発注間隔と在庫水準について学ぶ。
13	安全在庫、ABC分析について学ぶ(1)。
14	安全在庫、ABC分析について学ぶ(2)。
15	期末試験(筆記)

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他()	合計
割合	80%		15%	5%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学、大学院にて物理学を専攻し、修士号を取得。1985年より東京電子専門学校で数学関連の教科を教え始め、現在に至る。

【教科書・参考文献】

情報処理基礎講座8工業(水原邦保著・マグロウヒル) 初等ORテキスト(OB演習部会編・日科技連)

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
基礎専門 必修	講義	応用情報対策	太田和也	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

情報処理技術の応用的知識・技能を獲得し、応用情報処理技術者試験の合格を目指す。

【講義概要】

応用情報処理技術者試験の過去問演習を通じて、合格に必要なスキルを身に着ける。

回	授業計画及び学習の内容
1	応用情報対策の講義の説明、過去問演習（午前対策）
2	過去問演習（午前対策）
3	過去問演習（午後対策：情報セキュリティ）
4	過去問演習（午後対策：情報セキュリティ）
5	過去問演習（午前対策）
6	過去問演習（午後対策：組込みシステム）
7	中間試験
8	過去問演習（午前対策）
9	過去問演習（午後対策：ネットワーク）
10	過去問演習（午前対策）
11	過去問演習（午後対策：プロジェクトマネジメント）
12	過去問演習（午前対策）
13	過去問演習（午後対策：システム監査）
14	これまでの復習と試験勉強
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	70%		30%			100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

独立系IT企業にて、アンチウイルス製品のプリセールスおよび製品導入作業、サーバの設計、構築、保守に従事。

【教科書・参考文献】

特になし

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	講義	基礎数学Ⅲ	阿部 潤子	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

情報処理で多く使われる、行列と一次変換、正規分布、相関と回帰法（最小二乗法）を学び、プログラム作成の際に活用できることをめざす。

【講義概要】

図形変換の基礎となる一次変換行列、確率分布モデルとして応用範囲が広い正規分布、統計データの処理に必要である相関と回帰法について講義。毎回の授業では、その実用性を理解するために、多くの問題を解く。

回	授業計画及び学習の内容
1	ベクトルと行列の概念を理解し、ベクトルの計算方法（和、差、スカラー積）を学ぶ（1）
2	ベクトルと行列の概念を理解し、ベクトルの計算方法（和、差、スカラー積）を学ぶ（2）
3	2変数の一次変換と平面上の座標変換の関係を学び、一次変換行列の意味を理解する
4	多変数の一次変換と多次元空間内の座標変換の関係を学び、一次変換行列の意味を理解する
5	行列の計算方法（和、差、積）を学ぶ。一次変換の行列表記を用いて計算をする
6	推移確率行列とマルコフ過程について学び、実用的な応用問題を解く
7	中間試験（筆記）
8	正規分布の性質、標準正規分布の確率の求め方を学ぶ
9	確率変数の標準化により、あらゆる正規分布の問題に対応できることを学ぶ
10	正規分布モデルを適用して応用問題を解く
11	二項分布を正規分布で近似することの妥当性と実用上の有用性を理解する
12	正と負の相関の意味を理解し、相関係数の求め方を学ぶ
13	回帰法と最小二乗法について学ぶ（1）
14	回帰法と最小二乗法について学ぶ（2）
15	期末試験（筆記）

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%		15%	5%	52%	100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学、大学院にて物理学を専攻し、修士号を取得。1985年より東京電子専門学校で数学関連の教科を教え始め、現在に至る。

【教科書・参考文献】

初等統計学（P.G. ホーエル著・培風館） 情報数学入門（黒沢和人著・共立出版）

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	講義	基礎英語Ⅲ	酒井 智子	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

基礎英語Ⅱに引き続き応用的な文法事項の定着をはかりつつ、資格試験を含め更に実用的な英文に対応できるような基礎力・応用力を養う。履修後も自学自習が続けていけるような基盤を築いておきたい。

【講義概要】

TOEIC対策の模擬問題を題材として、既習の文法知識を復習しながらリスニング、会話、長文の問題演習を行い実践力を鍛える。専門分野のサイトから英単語集を利用し語彙の増強を行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	Unit 1 "Eating Out"
2	Unit 2 "Travel"
3	Unit 3 "Amusement"
4	Unit 4 "Meetings"
5	Unit 5 "Personnel"
6	Unit 6 "Shopping"
7	中間試験
8	Unit 7 "Advertisement"
9	Unit 8 "Daily Life"
10	Unit 9 "Office Work"
11	Unit 10 "Business"
12	Unit 11 "Traffic"
13	Unit 12 "Finance and Banking"
14	Unit 13 "Health and Welfare"
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	90%	3%	5%	2%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

高校教師（4年）、外資系企業の秘書（5年）、医療系大学で薬学部非常勤講師の経験（2年半）あり。
取得資格：英検1級、全国通訳案内士、医療通訳士技能検定2級（日本医療通訳協会）

【教科書・参考文献】

【教科書】 一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: LEVEL 1（朝日出版社）

【参考文献】 IPAセキュリティー英単語集（産業サイバーセキュリティーセンター）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		セキュリティ・ネットワーク科	2024		2年 後期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	講義	情報関連法規Ⅱ	佐久間 悠太	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

- ①現代の市民生活を送るうえで必要な法的知識を修得する。
- ②情報処理技術者として必要な法的知識を修得する。

【講義概要】

本講義では、身近な法律問題を取り上げて、法律学の基本的な知識を修得します。また、情報処理技術者として必要な法的知識を修得します。単なる知識として理解するだけでなく、具体的な事例をもとに、法的思考を養うことを目標とします。

回	授業計画及び学習の内容
1	イントロダクション（法とはなにか、日本の法律の基本的構成）
2	日本国憲法の基本について理解する①
3	日本国憲法の基本について理解する②
4	日本国憲法の基本について理解する③
5	民事法の基本について理解する①
6	民事法の基本について理解する②
7	中間試験
8	民事法の基本について理解する③
9	刑事法の基本について理解する①
10	刑事法の基本について理解する②
11	刑事法の基本について理解する③
12	情報処理技術者として必要な法律について理解する①
13	情報処理技術者として必要な法律について理解する②
14	2/23
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	70%			30%		100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

名古屋市立大学大学院修士課程修了。専攻は憲法学。大学院修了後、中日本高速道路株式会社に8年間勤務し、法務業務（契約書審査や訴訟対応等）や情報システム業務を主に担当。2021年に同社を退職し、現在は行政書士佐久間事務所の代表として、企業の法務業務をサポートしている。東北大学大学院博士課程に在籍中。

【教科書・参考文献】

電子開発学園メディア教育センター教材開発グループ『デジタル社会の法制度(第9版)』（電子開発学園出版局、2018年）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2024		2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
一般教育 必修	実習	プレゼンテーション		山際 能理子	有	1.5単位 30時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
<p>就職活動は、自分をプレゼンテーションする作業です。この授業は、プレゼンテーションの技術を身につけて自分を効果的に伝える方法を習得します。限られた時間の中で、効果的にアピールするためには伝わる法則があります。自分本位から相手本位に伝えるためには何が必要かを細かく学びます。カリキュラムは、理論を学び、実践し、検証し、再度挑戦するPDCAサイクルです。</p> <p>プレゼンテーションを実践し、採点評価しながら自己改善を目指します。</p> <p>ひとりよがりのプレゼンテーションから、相手を動かすプレゼンテーションにレベルアップして、今後の就職活動に活かせるようにする。</p>							
【講義概要】							
個人発表2回、チーム発表1回 合計3回のプレゼンテーションを実践します。毎回採点評価しながら自己改善を目指します。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	オリエンテーション 授業概要のプレゼンテーション（目的、目標、ルール、プレゼンテーションとは何か） 伝えることの意味、伝わるための3つの伝達力						
2	①構成力をつける 内容の組み立て方を知る						
3	②発表力 感じよく伝えるための発表力をつける、話法を知る ③表現力 スライドの構図による印象度の違いを知る						
4	第1回 個人発表 3回の授業で理論を学び第1回の個人発表に入ります。						
5	テーマ「国民食はどっち？」 スライド5枚以上 発表時間は3分						
6	チーム作業 課題「自分の科をアピールする」KJ法～骨子を決定						
7	チーム作業 役割分担、スケジュール作成						
8	チーム作業 最終調整						
9	第2回 チーム発表 発表後の自己改善点をふまえ次に活かします。仕事はチーム作業です。就職後を見据え、チームでのプレゼンテーションに挑戦します。テーマに基づき、チームで情報の整理・収束、作業の役割分担を決め取り掛かります。納期を設定し、作業スケジュールを立て、協力する過程を実践します。 スライドは10枚以上 発表時間はチームで10分						
10	PDCA 問題点を洗い出し、解決策を考え 最終課題に取り組む						
11	自分のSWOTシート作成						
12	最終発表 最終発表は、プレゼンテーションの集大成です。自己改善点の改題解決に向けて挑戦します。						
13	3回目の自己発表、テーマ「自分」 スライド10枚以上 発表時間は5分						
14	まとめと総合演習						
15							
【成績評価方法】							
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	
割合	100%					100%	
(補足) ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。							
【教員紹介】							
情報処理科、電子技術科、臨床工学科において、ビジネスマナーを担当。学校での講義だけでなく、企業での研修や講演も行っている。サービス接客検定本の著者。							
【教科書・参考文献】							
パワーポイントのスライド、配布プリント							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2024		2年 通年	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
一般教育 必修	実習	体育実習Ⅱ		高度情報システム科 担当教員	無	1.5 単位 30 時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

学園祭を通して、健全な身体と精神を育む。
学園祭は、各種催し物の企画、準備、実施、参加により、協調性を養います。
心身の健全な育成を目指しています。

【講義概要】

この授業は、学園祭（準備2日間、学園祭2日間）の参加を以て、評価します。

回	授業計画及び学習の内容
1	
2	学園祭準備（1日目、2日目）
3	
4	
5	学園祭（1日目）
6	
7	
8	学園祭（2日目）、後片づけ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	出席と取り組む姿勢	合計
割合					100%	100%

- (補足)
- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
 - ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
 - ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

【教科書・参考文献】